

令和4年 決算特別委員会(部審査) 開催状況

開催年月日 令和4年11月10日

質問者 民主・道民連合 高橋 亨 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 並行在来線について (一) 北海道新幹線並行在来線対策協議会渡島ブロック会議について 次に並行在来線についてお聞きしたいと思います。 新幹線の札幌延伸に関わって、並行在来線となります函館線の地域交通の確保方策について、沿線自治体の首長及び道で構成される渡島ブロック会議が2012年から行われてまいりました。その会議での主要課題と、これまでの議論経過についてお聞きしたいと思います。</p> <p>(二) 4者協議について 先般、政府は北海道の農産物などの輸送に貨物列車の果たす役割は重要であり、欠かすことが出来ないインフラであるということの認識から、JR貨物、JR北海道、政府、北海道の4者協議を始める事になりましたけども、その意義についての見解をお聞きしたいと思います。</p>	<p>【並行在来線担当課長】 沿線における検討経過についてでございますが、「北海道新幹線並行在来線対策協議会」の「渡島ブロック会議」につきましても、道と沿線自治体の2市5町で構成され、会議設立後、本年8月末までに9回開催しており、「函館・長万部間」における地域交通の確保方策に関しまして、沿線自治体の皆様と様々な協議を進めてきたところでございます。</p> <p>協議における主な課題といたしましては、鉄道運行又はバス運行かの方向性の検討を行うため、第三セクター鉄道とした場合に必要となるJR譲渡資産や初期投資などの費用の考え方をはじめ、バス運行では、バスルートの設定などについて、幅広い観点から検討を行っているところであり、その課題は多岐に渡っていると認識しているところであります。</p> <p>このため、これまでの協議過程といたしまして、令和2年度には、「旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査」を実施し、令和3年度からは、「函館・長万部間」の地域交通のあり方について、「収支予測等のさらなる精査が必要である」とのブロック会議でのご意見などを踏まえまして、現在、全線区を鉄道、または、バスによる場合のほか、輸送密度が高い「函館・新函館北斗間」を鉄道とし、「新函館北斗・長万部間」はバスとした場合の3つの交通モードを設定し、各モード別の初期投資や収支予測の精査などを行いつつ、その内容を踏まえた協議を進めているところでございます。</p> <p>【物流企画担当課長】 鉄道貨物輸送に関します関係者の協議についてでございますが、道では、学識経験者のほか、物流事業者、関係団体等の実務者で構成される北海道交通・物流連携会議の物流対策ワーキンググループにおきまして、本年5月に「北海道における安定的かつ効率的な物流体制の確保に向けた検討報告書」を取りまとめ、鉄道貨物輸送の維持や機能強化の必要性を示すすすとも、具体的な方策として、輸送モード間の連携強化や貨物新幹線の導入に向けた検討などを掲げているところでございます。</p> <p>また、国では、有識者や鉄道事業者などで構成する「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」におきまして、労働生産性や環境性能に優れた鉄道貨物輸送の拡大に向けた検討を進め、本年7月に中間とりまとめを行ったところであり、「貨物鉄道の競争力強化」、「他の輸送モードとの連携」などの視点に沿った取組の方向</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 防衛の観点について</p> <p>この北海道の鉄道網につきましては、赤字路線の議論の時もそうだったのですけれども、北海道の地勢からすると、隣国、北方領土、サハリンも含め、防衛上の問題も含めて色々と心配な意見もあったと思っています。</p> <p>今、ロシアとウクライナは戦争中、北朝鮮はミサイル実験を繰り返しているわけでありまして。中国は台湾との統一を目指していますし、そういう意味でいくと、まずは、隣国との外交に力を入れて、万が一の事態が起こらないようにしなければなりません。岸田首相は「あらゆる事態を想定しなければならない。」といつもの口癖のような言い方をしております、外交責任を棚上げしております。</p> <p>防衛省は防衛三文章の作成と次年度以降の防衛費拡大に全精力をつぎ込んでいるわけでありましてけれども、とりわけ北方領土と隣接している北海道の鉄道の必要性は非常に重要なものだと思うわけでありまして。</p> <p>また、防衛省も北海道の鉄道の維持について言及するようになってまいりました。並行在来線も含めた主要幹線鉄道存続について、道の認識をお伺いします。</p> <p>(四) 渡島ブロック会議への影響について</p> <p>4者協議の結果は、先ほどもお話しましたけれども、今後の渡島ブロック会議に影響を与える可能性が想定されるのかどうなのかお聞きしたいと思います。</p>	<p>性として、潜在的な輸送ニーズの取り込み、災害時をはじめとする輸送障害への対策強化、新幹線による貨物輸送の拡大に向けた検討の具体化など道の検討報告書と同様の内容が示されており、本道はもとより、全国の鉄道貨物の安定的な確保に向けましては、中間とりまとめで示された課題の解決を図っていくことが必要と考えております。</p> <p>こうした中、北海道と本州間の鉄道貨物輸送の維持に向けまして、先般、国、道、JR貨物、JR北海道の実務者レベルで論点整理のための意見交換を開始し、今後、課題の整理などを行っていくことを確認したところでございます。道といたしましては、引き続き、関係者と一層の連携を図りながら、必要な対応を検討してまいります。</p> <p>【鉄道担当局長】</p> <p>道内鉄道網の方向性についてでございますが、本道の鉄道網は、道民の皆様における暮らしはもとより、観光や物流など、本道の産業全般を支える重要な交通基盤であると認識しておりますが、本年7月、国が中間とりまとめを行った、「今後の鉄道物流の在り方に関する検討会」におきましては、自衛隊の物資輸送につきまして、平時からの備えの重要性が指摘されていると承知しているところでございます。</p> <p>道としては、将来を見据えた鉄道網のあり方を含む総合的な交通政策を推進していくための基本的な考え方などにつきまして、平成30年3月に策定しました北海道交通政策総合指針におきまして、全道的な観点から明示したところでもございます。</p> <p>その中で、JR北海道が単独では維持困難とする線区につきまして、国境や北方領土に隣接するといった各地域固有の実情、都市間の高速度輸送や鉄道貨物輸送を担う、あるいは、広域観光ルートを形成するといった特性を捉え、鉄道網の展望として、各線区毎に方向性を整理したところでありまして、各線区におきましては、これらの考え方などを踏まえつつ、JRと地域が一体となって、路線の維持・活性化に向けて利用促進に資する取組を行っているところでございます。</p> <p>【並行在来線担当課長】</p> <p>地域協議への影響などについてでございますが、函館線「函館・長万部間」における地域交通の確保方策の方向性の検討にあたりましては、当該線区が、特急列車をはじめとする様々な種類の列車が運行されているといった線区の特徴や新幹線開業による影響などを十分考慮するとともに、持続可能な地域交通の確保方策が早期に見いだせるよう、「スケジュール感を持って議論を進める」との渡島ブロック会議でのご意見を踏まえた上で、現在、幹事会を中心に、バスルートの検討や収支予測の精査などについて、幅広い観点から議論</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>いずれにしても、協議を早めていかなければならないというふうに思っていますし、新幹線札幌延伸の5年前ですかね、25年あたりまでは方向性がきちっと決まっていかなければならないと思いますから、残された時間もそんなに多くはないわけございまして、是非、精力的に取り組んでいただき、沿線のまさしく生活に関わる問題でありまして、先ほど言った他の様々な課題を含んでいる問題でもあります。</p> <p>(五) 函館ライナーについて</p> <p>一方で、ご存じのとおり函館市は観光の町でございます。コロナ前にはインバウンドも含めて年間500万人の観光客が訪れておりまして、函館市の宿泊の需要が一気に増えました。函館駅前、湯の川地区にも新しいホテルが旅館などが10軒以上も新築をされたということがありましたけれども、結果的にコロナ禍によって人流の抑制がありまして、開店はしましたが休業をしている施設もあるわけであります。</p> <p>さらに、並行在来線の存否によって、新函館北斗駅から現函館駅の間「はこだてライナー」の存続にも影響をきたすことになるだろうというふうに思っております。</p> <p>子細は今後の協議次第であることは十分理解しているわけでございますけれども、「はこだてライナー」の存続についての現段階での見解をお聞かせ願いたいというふうに思います。</p>	<p>を行っているところであります。</p> <p>一方で、同線区につきましては、貨物列車が走行している区間でございますことから、現在、全国的な観点から、国や道、JR貨物、JR北海道の関係者が参画し、貨物ネットワークの維持に向けた実務者レベルで、課題の整理などについて意見交換を始めたところでございます。</p> <p>道といたしましては、地域交通の確保方策をはじめ、貨物輸送のあり方につきましては、それぞれの会議体が抱えている課題の一つ一つに関しまして、しっかりと議論・検討を深めていくことが重要であると考えているところでございます。</p> <p>【鉄道担当課長】</p> <p>「はこだてライナー」についてでございますが、平成28年度の北海道新幹線開業時におきまして、主に新幹線を利用して函館市内に向かう利用者に対する利便性と速達性を考慮したアクセス列車の導入といたしまして、JR北海道におきまして、新幹線との接続や快速運転の検討、利便性の高いアクセス列車の運行、また、新たな電車を導入した所要時間の短縮などを目的といたしまして、「新函館北斗駅」と「函館駅」間を結ぶ、「はこだてライナー」の運行を開始したものと承知しております。</p> <p>また、同区間は、2030年度の新幹線札幌開業に伴いまして、JR北海道から経営分離される並行在来線として位置づけられておりますことから、現在、渡島ブロック会議におきまして、函館線の「函館・新函館北斗」を含む「函館・長万部間」につきましては、正にこの長大な区間における経営分離後の地域交通の確保方策について検討が進められているところでございます。</p> <p>道といたしましては、こうした経過や検討を進めようとする中におきましては、何より、住民の皆様が求める利便性や速達性の確保に加えまして、観光、ビジネスなどによる「はこだてライナー」の利用者数に応じまして、必要となる輸送力についても検討していくことが、大変重要であると考えておりまして、こうした実情、そして地域のご意向を踏まえた丁寧な検討を行いながら、早期に方向性が見いだせるよう、協議を進めていく考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>「はこだてライナー」をどうするかというのは、非常に函館の死活問題となってくるいうふうに思っておりまして、これは上は国会議員から下は市議会議員まで、函館市に関わる議員の方々是非常にこのことについて、いろんな活動をしておりまして、なんとか存続をしていただきたいというふうに思っているわけです。</p> <p>様々な検討がされて、三セクでということもあるのかもしれませんが、いずれにしても、これは費用負担の問題も様々出てくることになりますから、そのことも含めて、早め早めの対応をしていただきたいというふうに思うわけでありまして。</p> <p>現函館駅と新函館北斗駅の間をどうするかというのは、これは新幹線の札幌延伸が決まる段階で、前知事と函館市の間で様々な協議がされておりまして、その協議の中で書面まで交換したということがあるということをお聞きしております。そのくらい、当時も重要なこととして受け止めてまいりましたし、これからも重要な、私達にとっては、この「はこだてライナー」の存続の問題になるということですので、今、局長の方からお話ありましたけれども、改めて、先ほど言ったように経過のある話でございますから、知事のお話もお聞きしたいというふうに思っていますので、委員長のお取り計らいをよろしくお願ひいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。</p>	